

(様式1)

玉川ホーム運営推進会議報告書

開催日時	令和5年5月25日(木) 14時30分～15時00分	
場 所	玉川ホーム 会議室	
参加者	議 題	
利用者 名	1 報 告	
利用者の家族 名	(1) 施設の現況について	
地域住民の代表者、 知見を有する者 1名	2 意見交換	
郡山市の職員 名		
熱海地域包括支援センター職員 1名		
事業所 2名		
会 議 録		
1 報 告		
(1) 施設の現況について		
・ 利用状況 別紙のとおり		
・ 活動状況 別紙のとおり		
2 意見交換		
(園長) 皆様の忌憚のないお話をさせていただきたいと思います。		
玉川ホーム利用者様のご家族は本日急遽都合で欠席となりました。		
(熱海地区ボランティア連絡会会長) 昨年12月に75歳以上の方で1人住まいの方を対象に感染対策に努めながら安否確認を兼ねて訪問しました。今年の高玉地域は雪が多かった為、健康体操、高玉サロンを3月まで休み、3月末から再開しました。感染症予防のため、人数を半分にし、2回に分けて実施しました。		
(園長) 少しずつ集まる機会を持つようとしている所ですね。		
熱海地域包括センター所長さんお願いします。		
(熱海地域包括支援センター所長) 今年度より、熱海地域包括支援センターの管理者を務めています。65歳以上の高齢の方々の地域の相談窓口という事で機能しています。太田病院の職員ではありますが、郡山市の行政より委託を受けて郡山市の仕事を契約させて頂いています。要介護認定を受けた方の支援1、2の予防、介護保険の仕事を担当しています。地域の方々と連携し地域の町づくりから馴染みの環境下で皆さんがいつまでも住み続け、最期を迎えられるような地域包括システムの構築を目標に動いています。熱海さんは皆和気藹々と地域のネットワークが構築されている部分もありつつ、温泉街なので他の県や市から移住してきた方も結構居られます。高齢化が進んできている部分で、今まで助け合いが互いに出来ていたが、自分の生活、身体も大変で隣近所さんと支援が出来なくなってきている方々も結構います。コロナ禍で家にこもっていた事も多々あり、身体面、認知機能の面で低下し		

ている方が結構増えています。相談件数も去年の3倍近くになっております。実際相談頂いて訪問すると、皆介護認定を受ける様な方々でサービスを繋げられないギリギリのラインで生活されている方、認知症の症状がこの3年間の中で重症化していて、そういった方々を受診に繋げたり、施設探しやワンクッション置き、家族の負担を軽減させる為、通所の使用、地域のサロン、ボランティア活動や集いの場に参加等出来れば少しずつ変わってくると思います。感染症に気を付けながら協力し合い行っていきたいと思います。

(園長) ありがとうございました。貴重なご意見で地域の情報がなかなか3年間交流なかったので、熱海地域となると色々な問題が発生していたという事、これから大変な状況になると思います。訴えられる人はいいですが、家に1人でいる人達の為に包括支援センターという所が重要視してきますね。ショートステイもあるのでお役に立てればと思います。

(熱海地域包括支援センター所長) 結び付けが大変で、支援を求められずに家族に疾病を抱えている方が多い地域だと思います。

(園長) 中々外に発信できない人達も多い地域の様です。自分達の事は自分達でやるという考えが多いのでしょうか。地域性という所ではあたま地区ボランティア連絡会長さんどうですか。

(あたま地区ボランティア連絡会会長) ゴミ屋敷が増えているのを聞きました。

(熱海地域包括支援センター所長) ゴミ屋敷というかゴミを片付けられない一人暮らしの人が増えてきています。捨てに行けない、片付けられない、身体的、精神的な理由だったり、そういう方が増えています。

(園長) 法人としても地域貢献で子ども食堂や一人暮らしの高齢者の雪かきボランティアに取り組んでいます。今後も継続して地域貢献に取り組んでいきます。貴重なご意見ありがとうございます。

その他何かありますか。

(介護員) 3年間コロナで面会が出来ず、感染が流行った際にはお部屋で過ごして頂く事も多く、入室の際はコミュニケーションを多くとるよう心掛けてきましたが、利用者様より家族に早く会いたいという言葉が多く、まだ難しい状況ですが、面会が出来るように進めば良いなと思います。

(園長) 介護をしていても家族が利用者様にとっては一番ですもんね。今まで生活を共にしてきたという所では、助けられない所もありますね。

(園長) ここで、3月より本格導入いたしましたICT機器、インカムについて簡単にご紹介致します。当法人では、ネックタイプの物を使用しています。

(介護員) インカムは離れた場所にいる人を呼べて聞きたいことが聞けます。食事や水分、排泄や軟膏等の確認、夜間帯に職員を呼ぶ際に大声を出さずに用件をすませる事ができます。人を探す時間がはぶけ、急変時の対応が迅速に行えます。ブザーが重なった際に誰がどこに行くか等把握し対応できます。情報共有にも役立ちます。

(園長) バイタルの報告、転倒や急変時等その場を離れずに観察しながら情報を伝え

たい時に使用しています。利用者を守るという面で工夫し、又便利な物は色々体験し良いと思う物を取り入れてきました。廊下に並んでいる車椅子もリフト車専用の安全性を考えた車椅子です。今回はインカムの説明をさせて頂きましたが、今後も利用者の安全を考えながら支援していきます。

(あたみ地区ボランティア連絡会会長) 今年の利用者、職員のコロナ感染状況は？

(園長) 玉川ホームは、1/23が最後の職員コロナ陽性者、それ以降はでていません。インフルエンザは流行っており、育児を通しかかった職員はいます。ご心配おかけしました。コロナに関して玉川ホームは特に11月から1月上旬まで感染者が多く、今後も継続し対策をとっていきます。5類に変更となり情報も曖昧ですが、ホームでは熱が高い時は抗原キット使用し早めに対応しています。

(園長) 日中は気温が高くなり、まだ体が慣れておらず体調を崩しやすい時期ですので、お気を付けてお過ごしください。本日は貴重なご意見やご指導をいただきありがとうございました。